

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4792400030		
法人名	株式会社 ベストビジネスコミュニケーション		
事業所名	認知症対応型グループホーム結の郷		
所在地	沖縄県中頭郡北谷町吉原1180-1		
自己評価作成日	令和3年 1 月 8 日	評価結果市町村受理日	令和3年4月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosoCd=4792400030-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェント		
所在地	沖縄県那覇市上之屋1-18-15 アイワテラス2階		
訪問調査日	令和3年 2 月 19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

これまで御家族が気軽に面会にきてくださっていたが新型コロナ感染が広がり面会制限をかけています。御家族、入居者がさびしい思いをしないように動画、写真を送り、また家族からも送られて入居者本人に見てもらい家族が元気であることを伝えていきます。日々の生活の様子、心身の変化など家族と連絡をこれまで以上に行うように努めています。外出が少なくなったので(感染予防)運動、レクレーション、脳トレ、カラオケを行いストレスにならないように努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

3階建ての民家を改修した建物で、1階は駐車場、2階はリビング・食堂・台所・浴室等の共有スペースで畳敷きの部屋や床の間があり、自宅に在るような環境の中で利用者は沖縄芝居をユーチューブで鑑賞している。3階が各居室になっており階段とエレベーターが設置されている。2階からはスロープもあり車いすでも駐車場や屋外に行き来できるようになっている。法人の経営理念から、事業所独自の理念を管理者と職員がともに考え毎年見直しを行っている。今年度は「真心」を特に意識し、職員がわかりやすい言葉で目の付く場所に掲示することで職員も理念を意識しながら日々のケアに反映している。また、職員の資格取得や研修の支援も充実しており、働きやすい就業環境になっている。排泄の自立支援にも力を入れており、日々の支援や個々の性格を把握することで、入居時はおむつだった利用者も布ショーツで快適に過ごせている。家庭的な雰囲気の特徴の事業所で、重度化や終末期も行なう方針で、今年度は1件の看取りケアが行なわれていた。ケア前と直後にも職員で話し合う場を作り、準備や振り返りをする事で職員の不安を少しでも軽減して利用者に沿ったケアができるように努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	定期的ではないが入居者へのケア、仕事に対して問題があるとき共有している。	理念は開設当初に、法人全体のものとして作成、事業所内に掲示している。法人全体の理念を、事業所の職員でさらに自分たちの言葉に置き換え、利用者と同じ目線に合わせて、ゆっくりと丁寧に話を聞くことを意識している。課題や悩みが出てきたときに、職員間で理念を確認しながら日々の支援の実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣近所の方とあいさつを交わしたりおしゃべりを気軽にしています。	地域行事に参加したり、地域との交流を行っていたが、去年からコロナ禍で地域との関わりは難しくなっている。コロナ禍でも庭での日光浴や散歩に出かけた時には、近隣の方とあいさつを交わし雑談をする等の交流を楽しむことができている。定期的に、自治会や社協を訪問し、相談をしたり、要望を聞いたりしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナウイルス感染の影響もあり地域との交流を中止になり活かしていません。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染の影響もあり運営推進会議開催の集まりが難しく最近では電話や書面での状況報告しています。	コロナ感染対策に伴い、外部の人との接触を避けるため、事業所での運営推進会議の開催は自粛しているが、事業所の運営状況等について、文書にて構成員へ報告し、意見や助言を求め、サービスに活かせるように取り組んでおり、年6回の運営推進会議が確認できた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	北谷町役場担当者と連絡を取り合い施設の状況等報告し連絡を取り合っている。	現在コロナ感染対策に伴い、外部の人との接触を避けるため、これまで定期開催のあった地域のグループホーム連絡会等は自粛しているが、役所へは事業所の運営状況は文書で報告し、その都度相談や連絡を行うなど情報交換及び協力関係の継続に努めている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	抑制委員会が中心となり身体拘束に関する勉強会を開催。YouTubeを活用し施設内で勉強会を行い、その中で、これまで家族、来客者が自由に入出入りしていたが新型コロナウイルス感染拡大により面会制限をかけ感染予防のために玄関のカギをかけることを話し合った。	身体拘束等の適正化のための指針を作成し、コロナ感染対策のため職員のみで身体拘束等の適正化のための委員会を開催している。家族がベット柵を使うことを提案したとしても、職員間で話し合い、柵を使わずに対応できる方法を検討し、柵を使用しないケアを実施している。権利擁護や身体拘束に関する勉強会を事業所内で実施し、職員の共通認識を図っている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	YouTubeを活用し施設内で勉強会を行っています。管理者は職員が利用者に対して言葉使い、行動の制限が行われていないか気になるときは話し合うようにしている。	高齢者虐待防止マニュアルを整備し、外部研修へ参加した職員が学んだことを事業所内でも共有しながら、虐待防止に関する理解や順守に向けた取り組みをしている。管理者は、職員の疲労やストレスに気づいたときには、休みやシフトを調整している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	YouTubeを活用し施設内で勉強会を行っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時には、契約書、重要事項説明書で説明を行っている。ご家族ともいつでも気軽に連絡が取れその都度、不安や疑問がないか確認をしています。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関入り口に【意見箱】を設置。ご家族からは来所時、メール、電話などで直接聞いている。	利用者からは、日常会話から直接、家族からは電話やメール等で要望を聴いている。コロナ禍で面会も難しいが、窓ガラス越しや電話で本人の様子を伝えたり、カジマヤーのお祝いをしたいという家族の要望には、事業所内で職員がお祝いする場を設けたりと、家族が相談しやすい雰囲気づくりを心がけている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表は人事考課による個人面談を年一回実施している。職員からの要望で感染予防の為に施設内消毒のためのアルコールを購入している。	職員が意見や要望を言いやすいように日頃からコミュニケーションをとっている。資格取得に向けての費用の支援や、研修等に参加できるようにシフト等サポート体制を整え、学び成長することを大切にしている。また、技術や知識の向上を図るため、資格取得後は図書券を支給し、職員のモチベーションを高める取り組みをしている。	
12	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表は人事考課による個人面談を行い評価を実施し給与面に反映している。本人の希望する休日、有給休暇の希望を取組ながら勤務調整をしています。	代表者は職員と面談する機会を設けて、職員がやりがいをもって業務ができるように、年1回の人事考課を行っている。管理者は、職員との良好な関係を大切にしながら、職員それぞれの個性を活かして適材適所で役割を持てるようにしている。管理者は健診を受けるように職員に周知し受診済みの職員もいるが全員の健診確認はできなかった。	健康診断については義務付けられているため、定期的な健康診断を実施し、職員の健康管理に努めることが望まれる。
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表は職員一人ひとりの話を聞いてメンタルケアを行っている。施設内で職員育成の取り組みに対して研修を行い教育体制を整えるつくりを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	系列のデイサービスの職員と情報交換を行って質を向上させている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人へは日々の場面で意見や要望を確認し安心した生活ができるように努めています。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族とは管理者と来所時、電話、メール等で意見や要望を確認し安心した生活ができるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族からの情報、本人の生活状況、主治医からの情報等を職員と情報共有を行い支援を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員はゆったりした時間を共に過ごしコミュニケーションをとり信頼関係づくりを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	新型コロナウイルス感染防止のため面会制限をしているので、本人、家族の寂しさが軽減できるように日々の生活の様子を動画や写真を家族に送り、家族から元気な様子を動画、写真が送られ本人にみてもらっています。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルス感染防止のため外出も控えているのでGoogleマップを活用し自宅やよく買い物していたスーパーの映像、地元の青年のEイサー動画、北谷町の風景の映像をみて安心できるように努めています。	コロナ禍で通常の外出がなかなかできない中、インターネットを活用して利用者の住んでいた地域の景色や地元の行事の映像等をテレビの画面から流している。また、教員を退職した利用者の居室には「先生」と表示し職歴を把握した支援を行なっている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの性格をを理解し、席の配置、トラブルがみられる方は職員が間に入り関係づくりを工夫しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や退去になっても医療機関、転所先に情報提供を行い、電話、メールで状況確認をとっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者とは日々の生活の中で、しぐさから思いの把握に努め職員と情報を共有している。例えばラジオ体操を毎日行っていたと本人から聞き朝の運動にラジオ体操をとりいれたり、昔バレーボール選手だったと聞きボール運動を取り入れています。	入居時には利用者・家族からの聞き取りで利用者の思いや意向を聞き取り、入居後は日々のケアの中で利用者の発言や行動、表情から把握するように努めている。アセスメントシートや介護記録には利用者の思いが記載されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	継続した入居生活を送るため一人ひとりに応じた過ごし方を職員間で情報を共有し把握に努め支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身の状態に応じて必要であれば他機関の協力を得ながら支援している。例えば骨折し退院後のリハビリを訪問看護と連携しホームでの生活が送られるように支援しました。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	リーダーを中心にケアの状況をモニタリングし職員に意見を確認している。介護計画は家族、本人に意見を聞き理解を得ています。	サービス担当者会議には家族の参加があり、介護計画は半年ごとにモニタリングされている。介護認定更新時の他、利用者の状態変化時や状況が変わりかかりつけ医の変更があった時等、必要に応じて介護計画の見直しがされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に介護記録を記入し、状況の変化があれば家族に意向を確認しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診は家族ができないときは職員が同行、薬の受け取り、入退院時の同行を行っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者と散歩しながら近くのコンビニで買い物を買い換えを交わしている。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほとんどの方は入居前からのかかりつけ医を変えず受診しています。主治医との相談が必要な時は職員も同行し相談し助言をいただいています。	受診は基本的に家族対応で行なっているが、利用者の状態、家族の状況で家族のみでの支援が困難な際は職員も一緒に送迎や診察の同席をして、利用者が適切な医療を受けられるように支援している。かかりつけ医は利用者の状態に応じて前のかかりつけ医と相談しながら家族の意向で変更している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化時や定期受診時の報告は常に情報共有しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には本人の状態の報告を行い、入院中は新型コロナウイルス感染予防の為面会ができないので病棟看護師、相談員に電話し状態把握に努めています。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時、状況が変化したときは終末期等を想定し話し合いを行い家族の意向に沿うケアを実践している。	事業所は重度化や終末期ケアを行なう方針で、今年度は1件の看取りケアが行われた。入居時や利用者の状態変化時に家族と話し合い、ケアが始まる前には職員全体で話し合い情報共有し、看取りケア終了後直ぐに職員全体で再度話し合い・振り返りを行なっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルに沿って職員間と話し合いをおこなっている。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行っている。	年2回、昼夜想定避難訓練を実施している。地域住民との関わりも日頃からあり、訓練実施の際は近所の学生が利用者の見守りの協力をする等、地域との協力体制も取れている。備蓄は3日分常備されている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄、入浴時の羞恥心に配慮した言葉かけや対応を心がけて対応している。居室に本人がいるときは基本閉めているが換気するときは同意を得て開けている。	事業所の理念でもある、「利用者一人一人の尊厳を守る」の下、利用者と目線を合わせたケアや言葉かけ、入浴や排泄時には利用者の意向に応じて同性介助を行なう等の配慮に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人に耳を傾け、またはしぐさで確認し状態に合わせた対応するように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴は時間、曜日を決めています。気分、体調に合わせて変更しています。運動を毎日行っていますが本人の気分に合わせています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行事の時はいつもと違うおしゃれ着をきて、お化粧をして参加しています。毎朝、鏡を見て髪を整えたり結んで整えています。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事づくり手伝い(フーチバーの葉とり、もやしのしっぽとり)を行っています。行事の時はオードブル形式で食べたいものを自ら選んで食べれるようにしています。	3食とも事業所で調理し、利用者には野菜の下ごしらえ等できる事を手伝ってもらっている。利用者のリクエストや嗜好を把握して、メニューに取り入れ提供している。食事は管理者が利用者と同じものを一緒に食べている。家族からの果物や黒糖の差し入れをおやつに提供することもある。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分量はその都度チェックしています。いつでも飲めるように飲みものを近くにおいたり飲みたいものがあれば準備できるように支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを実施。個々に合わせた準備や支援を行っています。		
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中はトイレで排泄できるように声かえを行ったり、おむつが必要な方でも我慢している場合もあるので体調に合わせてできるだけ2時間置きのトイレ誘導を実施しています。	利用者一人一人の性格を把握し、自分から言い出せない利用者には職員がタイミングをみて声をかけることでトイレでの排泄ができ、失敗を減らすことができている。生活リズムの中でトイレへの案内をすることで、日中はほとんどの利用者がトイレで排泄できている。入居時はおむつだった利用者も、現在は布ショーツを着用して過ごしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品なども飲んだり、運動ををしたりして便秘予防に努めています。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3~4回を基本としていますが、いつでも希望があれば入れるようにして、拒否するときは気分を変えたり職員を変えたりして工夫しています。家族がボディクリームを用意して入浴後は塗布し乾燥を予防、気分爽快。	入浴は利用者の意向を尊重して同性介助を基本とし、利用者の希望に応じて入浴を支援している。入浴を好まない利用者へは足浴をきっかけとして誘導する等、個々に沿った支援ができるように工夫している。浴室には暖房が設備されており、快適に入浴できる環境である。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食事の摂取時間や起床時間は本人のペースに合わせて生活を支援している。しっかりと眠れるように適度な運動と静かな環境づくりを工夫しています。		
47	(20)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の副作用、注意点がある場合は申し送り用紙に記入し情報の共有をしています。職員も定期的受診や訪問診療の時等できるだけ付き添い情報把握に努めています。服薬する際もスタッフ同士確認し誤薬防止に努めています。	事業所独自のマニュアルが作成され、職員が目に入る場所に掲示している。服薬管理は看護師が行ない、1週間分の薬をセットした後、毎回職員2名で名前と薬をチェック、飲み込むまでの確認を行なうことで誤薬等の事故防止ができています。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々のできる事を生かしながら家事手伝いを行っていただいたり、YouTubeをテレビに飛ばして昔の歌謡曲や野球をみたり楽しめるように支援しています。		
49	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	園庭の手入れや散歩をしたり病院受診帰りなど、本人が必要な物やほしいものを一緒に買い物に行ったりしています。	コロナ禍で遠出の外出等は行えていないが、日常的には近所を散歩し、近くのコンビニに好きなお菓子やジュースを買いに行く等一人一人の希望に沿った外出支援を行なっている。散歩ができない利用者は玄関先や庭に出て日光浴をしながらおやつを食べる等工夫している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いを持っている方は、希望があれば一緒に買い物にいたりしています。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	県外や海外に家族が居る方もいるので気軽に電話しています。コロナウイルスの蔓延に伴い面会制限をかけていますが、動画・写真撮影をして家族に送ったりその都度状況を伝えるように支援しています。		
52	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	認知症状による判断力・理解力低下により、衛生的・環境的にも危険な行為があり、台所もフロアから死角になっている事から見守りが十分に行えないのでやむ負えず、台所のみすぐに通れないように仕切りを作っています。台所で過ごしたい方もいるので、要求がある場合等にコーヒーを飲んだりのんびり過ごす環境も作るよう心がけています。	2階建ての1階部分がリビング兼食堂の共有スペースになっている。元が民家だったこともあり、家庭的な雰囲気づくりになっていて、畳敷きの部屋や床の間があり、自宅にいるような環境の中で利用者は沖縄芝居をユーチューブで鑑賞している。ソファを点在して設置し、テレビは2か所に設置しそれぞれが好きな場所で過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	TVをみれる場所を2か所設置し野球がみたい人・歌番組をみたい人など自然と気が合う利用者同士で過ごす環境を作るよう心がけています。		
54	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族には入居時に本人の馴染みのあるものを持ち込んで安心できる環境づくりを心がけています。	各居室には電動ベッド、エアコン、タンスやクローゼット等の収納が備え付けられている。居室はそれぞれ窓があり、明るい日差しが入る設計になっている。それぞれの居室にはちゃぶ台やテレビ、家族の写真が持ち込まれ、居室によって壁紙や居室の間取りが違い、特徴のある居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の好きな活動やできる事を継続してできるように工夫しています。フロアも動きやすいようにレイアウトしています。		

目標達成計画

作成日: 令和 3 年 3 月 23 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	12(9)	健康診断を受けるように職員に周知し検診済みの職員もいるが全員の検診確認は出来なかった。	職員全員が健康診断を受ける。	健康診断を受けない理由が「忙しくて」「若いので大丈夫かな」「定期で医療機関を受診しているから」と返答。取り組みとして検診月を設定する。	12ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。